

TEISO TOYOKA NEWS

2017年2月号 VOL.96

企画・発行：(株)テイソートヨカ 四日市技術研究所
掲載している記事の無断使用を禁じます。〈URL〉 <http://www.teisotoyoka.com> 〈E-mail〉 info@teisotoyoka.com

鳥インフルエンザ蔓延防止対策作業に参加しました

1月14日に岐阜県山県市にて、高病原性鳥インフルエンザによるニワトリの大量死が確認されました。岐阜県より弊社が加入する(一社)岐阜県ペストコントロール協会(以下岐阜県協会)に対し、鳥インフルエンザ被害拡大を防ぐため、周辺道路を走行する関係車両に対する消毒ポイントを設置するので、出動し消毒作業を実施する旨の依頼がありました。これを受けて、私達岐阜営業所も消毒作業に加わりましたので、作業の概要と現場の様子を簡単にご紹介します。

消毒ポイントは周辺道路計9ヶ所(中心から半径3km圏内に4ヶ所、半径10km圏内に5ヶ所)設けられました。作業の流れは、「走行する車両のドライバーへの説明→車両全体への消毒剤の噴霧→消毒証明書の発行」というものでした。消毒剤の噴霧は動力噴霧器を用いました。各場所での作業メンバーは、県および市の職員、警察官、それに協会員で、3週間余にわたり24時間対応で作業に当たりました。



消毒ポイントによって交通量の差が大きく、とても忙しい場所と通過車両が少なく手持ち無沙汰になる場所があったりしました。また、中には山間の道路に設置されたポイントもあり、移動式の照明はあるものの暗かったり、寒さのため作業途中で消毒剤を撒くためのホース内の消毒液が凍結したり、動力噴霧器のエンジンが起動しなかったり、といったトラブルもあり、緊急対応ということで戸惑うこともありましたが、期間後半にはスムーズな対応ができたと思います。

今回の出動を通して、作業現場等では長時間に渡り、県・市の職員の方々と交流する場となったため、普段あまり得られないようなコミュニケーションをとることができました。鳥インフルエンザ発生対応という大変貴重な体験を通じて、改めてペストコントロールという仕事の大切さを実感しました。また、感染症関連の行政機関、警察、ペストコントロール業者という立場のメンバーがそれぞれ協力して仕事をするのを初めて経験できました。寒い中、大変な仕事でしたが、2月7日に大きな事故・怪我もなく終わることができたこと聞いて安堵しています。このような高病原性鳥インフルエンザの発生があってはいいませんが、万が一にも発生した場合には、今回の経験を活かし、迅速で適切な対応ができるようにしたいと思います。(Y. K.)



今月のオススメ ミラクン自動投薬器：簡単操作で手間いらずの新型自動薬剤噴霧器です。



この度リニューアルによりミラクンS自動投薬器が性能はそのままでもより安価でお求め易くなりました。ミラクンSの7kgボンベを使用し、室内の噴霧したい場所への配管と専用ノズルを設置すれば、後は接続するだけで自動噴霧が開始できます。ウィークリータイマーによって曜日ごとに、噴霧時刻、投薬量を自由に設定でき、ボンベも含めて高さ1.3m、本体を設置するために必要な床面積もわずかA4用紙程度と非常にコンパクトです。

使用する薬剤のミラクンSは水や有機溶剤を一切使用せず、二酸化炭素のみでドライに吹き付けることが出来ます。ハエ、カなどの飛翔害虫に対して効果を発揮し、デング熱対策にもご使用いただけます。

夜間や休日の薬剤噴霧を人手を使わずに出来る事によって、倉庫内などの飛翔昆虫への防除業務へのランニングコストを低く抑える事が出来ます。この機会に是非、お求めください。

自然の復元力 Vol. 75

昆虫の歴史については、すでに紹介してきた通り、ルーツは維管束植物を持つ植物が陸で出現した時期でもあるシルル紀(約4億4000年前~4億1000年前)と推定されています。その後、被子植物が初めて出現した白亜紀(約1億4000年前~6500年前)には、昆虫と植物との共生化が進んだ時期と評価され、両者の多様化がめざましく進展したと考えられます。これは一方では昆虫への餌補給の役割を植物が大きく担っていたからと思われる。というのは、昆虫の口器は、植物質の餌を摂食するのに都合のいい形状(自然の復元力 2805より、図1参照)しているからです。

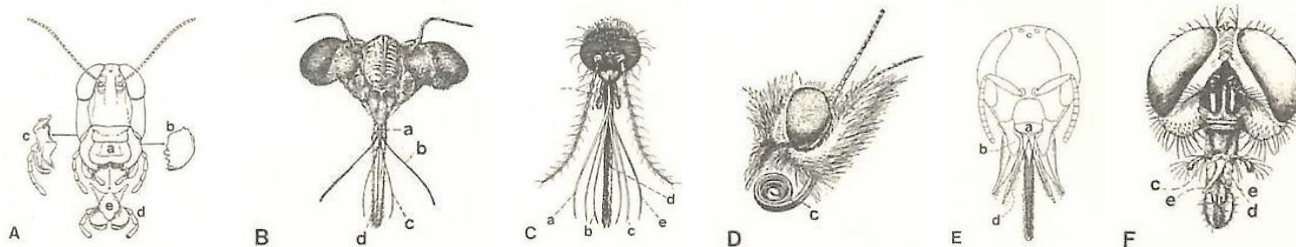


図1. 昆虫の多様な口器(Metcalf and Flint, 1962; Ross, 1956)。A:バッタ類の咀嚼型口器、B:セミ類の嘴型口器、C:カ類の刺吸型口器、D:チョウ類のサイフォン型口器、E:ミツバチ類の咀嚼と吸収の両用型口器、F:ハエ類の舐吸型口器。a:上唇、b:大あご、c:小あご、d:下唇、e:舌(中筋ら、2000より)(図および文章:『昆虫未来学』藤崎憲治著より)

ゴキブリやバッタなどの口器は、大あごを用いた咀嚼系のもので、昆虫の口器の基本形です。蝶や蛾などやカメムシ類の成虫は、液体を吸うために特殊化した吸収タイプの口器です。咀嚼と吸収のどちらの機能も併せ持つミツバチの口器は、咀嚼吸収口器と呼ばれる口器で、噛む型を原型にして、吸う機能をもつ口物も兼ね備えた進化型の口器です。また、ハエでは唾液(消化液)を出して有機質を液状化し、それを舐め取るため、巨大な唇弁を発達させています。昆虫は脱皮変態によって成長し、多くは幼虫期と成虫期では食料が異なる場合もあって、成虫と幼虫の口器の構造が異なる場合があります。例えば、モンシロチョウの幼虫は大あごを用いた咀嚼系の口器を持ち、キャベツなどアブラナ科の植物の葉を噛みきって食べていますが、成虫の口器はストロー状の口吻で花蜜を吸います。

小動物を捕えて食べる肉食性の昆虫は捕食性昆虫といえます。そこには探索タイプと待ち伏せタイプがあります。トンボなどは前者、カマキリなどは後者に属します。罌を仕掛けて捕獲するのは待ち伏せタイプになりますが、ウスバカゲロウの幼虫(アリジゴク)のように乾いた地表にすり鉢状の捕虫器を作り、すり鉢に落ちた小昆虫を捕獲するもの、雌は蛍の発光をまねて発光して雄の蛍を呼び寄せ捕食するもの、腹端からハエを引き付ける匂いを発して、誘引したハエを捕食するものなど、様々です。

植物を食べる昆虫を植食性昆虫と呼びます。昆虫の餌になっている植物といっても、葉、つぼみ、花びら、花粉、蜜、茎、樹液、樹脂、根、果実、枯れ木、腐植質など植物のほぼすべての部位が昆虫の餌の対象になっていますが、すべての昆虫種がこれらのすべてを食しているわけではありません。昆虫にも好き嫌いがあるようで、単一ものしか食べないケースを単食性、ある程度決まったグループに属する植物を食べるものは狭食性、異なる科にまでまたがって摂食するものや動物質も植物質も両方食べるものを広食性と区分されています。ある程度決まったグループに属する植物を食べるものは狭食性といい、異なる科を含む多種の植物を喫食するものや、動物質も植物質も食べるものは広食性呼びます。

生物界では、植物を食べる植食者を基本として、それを捕える捕食者や捕食寄生者などによって、複雑な植物連鎖が形成されています。また、昆虫も植物も各々のグループのみの中だけでなく、鳥類、淡水生魚類、哺乳類などの餌としても重要な役割を演じている点について次号にできれば解説したいと思います。(Sin)

注)参考文献:・Jean Henri Fabre 著「昆虫の世界」新星出版社・藤崎憲治著「昆虫未来学」(株)新潮社



Eco Friendly Pest Management
自然にやさしい総合的有害生物管理
株式会社テイソートヨカ

IPM・コンサルティング・異物同定分析

有害生物(ネズミ、ゴキブリ等)管理・ノラバト飛来防止施工

〈URL〉 <http://www.teisotoyoka.com> 〈E-mail〉 info-teiso@teisotoyoka.com

本社・名古屋東営業所	〒468-0045	名古屋市天白区野並 2 丁目 334 番地の 2	TEL 052-891-8311	FAX 052-891-8440
名古屋西営業所	〒453-0818	名古屋市中村区千成通 4 丁目 18 番地	TEL 052-482-6591	FAX 052-482-8778
三重営業所	〒510-0863	三重県四日市市大字塩浜 4005 番地 1	TEL 059-345-3571	FAX 059-345-3572
岐阜営業所	〒501-6264	岐阜県羽島市小熊町島 4 丁目 61 番	TEL 058-392-6454	FAX 058-392-6407
北陸営業所	〒920-0356	石川県金沢市専光寺町 47 番地 1	TEL 076-266-6474	FAX 076-267-6480
富山営業所	〒939-8261	富山県富山市萩原 42 番地 1	TEL 076-481-6474	FAX 076-481-6471
新潟営業所	〒950-0993	新潟県新潟市中央区上中 2 丁目 1 番 7 号	TEL 025-283-6474	FAX 025-283-6497
四日市技術研究所	〒510-0863	三重県四日市市大字塩浜 4005 番地 1	TEL 059-325-6431	FAX 059-325-6430